

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年4月1日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|---------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 工学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部3 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | | 6. 起業 |
| | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は、中国で最も歴史がある大学の一つであり、浙江省西湖区に位置する。1897年に求是書院として設立された。杭州市内に5つのキャンパスがあり、大学ランキングとしても中国全土で5位以内に入っている。

参加した動機

今回のプログラムでは中国語を学習できるということで、特に中国語を使う訓練を通して語学力を上達させたいという思いで応募した。また、杭州はこれまで訪れたことがなかったので、観光や学生交流を通して見聞を広めたいと考えた。特に現地の大学生と交流することは互いの文化を知るうえで良い機会になると考えて参加することを決めた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大で一括して申し込みを行うのでアプリケーションを提出するだけで良い。保険は加入必須となる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

2週間なので不要

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。胃薬や風邪薬のみ持っていった(現地では使わなかったが持参することをお勧めする)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学(学校指定)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前の中国語は、基礎文法や発音がひとつおりに入っているレベルだった。出発前にラジオ講座を聞くなどの勉強を進めていた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地の大学生用にお土産を購入しておくことをお勧めする。VPNの接続やWechatのアカウント取得も行っておき、できればWechatペイの手続きもしておくのと到着後に便利です。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は授業、午後はアクティビティというスケジュールだった。授業は、精読、リスニング、口語、読書の4種類のクラスがある。毎回宿題が出る。また、これはセメスターを通して行われる授業であるため最後まで受講することはできない。

②学習・研究面でのアドバイス

授業の予習、復習はしっかりと行いましょう。また、授業中は積極的に先生とコミュニケーションをとるとスピーキングの良い機会になります。他の学生も積極的なので負けないようにしゃべりましょう。

③語学面での苦勞・アドバイス等

リスニングや口語の授業は結構大変でした。特に先生は全て中国語で話すので言いたいことをしっかり伝えることが難しいですが、会話を積極的に行うことはスキルアップにつながると思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

玉泉キャンパスの留学生楼に宿泊した。2人部屋で、ホテルのような雰囲気である。ベッドは快適で机も使いやすく、毎朝掃除を行ってくれる。シャワーも水圧、温度ともに問題ない。トイレは洋式だが紙を流せないのに注意。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

天気は変わりやすく、気候は比較的穏やかですが、滞在中は寒かったり暑かったり温度変化が大きかったです。大学(玉泉校区)周辺は店も多く、特に南門周辺は観光地のようなきれいな街並みです。大学付近にはバス停があり、アクセスは良好です。食事は学食が充実しており、朝から晩まで安くおいしいものが食べられます。最新の食堂は非常に綺麗でレストランのような雰囲気です。両替は、新橋門付近の中国銀行で行いましょう(中国の電話番号が必要なので友人に聞いておく)。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は昼夜問わず全く問題ないです。慣れない地ということで休息はしっかりとることと、友人達と行動することには気をつけましょう。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

東京と上海浦東の往復は30000円台で済むはずですが(今回はANAを利用)。滞在費は6万円(食費除く)でしたが奨学金により補助がありました。交通費、食費はともに非常に安いです。例えば、バスは一回2元、学食ならば1食10元程度。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金が全員に対して適用された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

アクティビティの時間には浙江大学の学生と一緒に様々な場所に行ったり食事を共にしたりする。週末にはスクールバスで南京に行く人もいたが私は隣町の紹興市に高鉄で行って観光した。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

アクティビティをはじめ、非常に手厚くサポートしてくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂は大きなものが4つあり、キャンパスカードで支払う。図書館も大きいですが、私たちのカードでは利用できなかった。体育館は利用でき、バドミントンや卓球ができる。Wifiも利用可能。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国の地で朝から晩まで中国語に触れるという経験は語学力上達において非常に効果的だと感じた。また、アクティビティを通して杭州を満喫できたので非常に充実した2週間となった。浙江大学の学生とは非常に仲良くなり、互いに様々な話をしてたのしむことができた。自由行動の時間にも多く来てくれたので非常に良い思い出を作ることができた。今回私は参加者の中で中国に比較的慣れている方であったので、自分から積極的に行動し、時にはメンバーを助けるという機会に恵まれた。これは、中国語を使うという意味でも文化交流という意味でも自分にとっての成長となったと感じている。

②参加後の予定

夏に今回のメンバーの一部で再び訪中することを考えている。その際には浙江大学の友人達に再会したい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

二週間という短い期間ではありますが、美しい杭州の街を五感で楽しむいい機会です。また、授業やアクティビティを通して中国語力も向上すると思います。訪中経験がある人も初めての人にもぜひお薦めしたいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

杭州ナビのHP

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 30日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 工学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部3 |
| 参加プログラム: | zlu | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学の玉泉キャンパスに行った

参加した動機

中国語の勉強がしたかった

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

保険の申し込みなどはできるだけ早く進めるべき。進めて行く上でわからないことが発生するため。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取得しなかった

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

なし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から要請された保険に加入した

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

このプログラムのために取得したわけではないが、HSKの5級は取得していた

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

可能ならアリペイかwechatペイを使える(自分で入金できなくとも人から受け取れる状態)ようにしておくとう便利。wifiをレンタルするよりはsimを買った方が安いしどこでも通信可能(simロックの解除はネットですぐにできた)

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

似たような単語の使い分けなどが面白かった。聴解、読解、口語の授業で扱われる新出単語が比較的揃えてあって学習しやすかった

②学習・研究面でのアドバイス

期間に限られるので自分から質問したり発言するのがいいと思う。その過程で発音の練習にもなる。

③語学面での苦勞・アドバイス等

中国語の発音は自分が思っている以上に難しいのだなと感じた。日本人はなまじ漢字が読めるので読解力と会話の能力に差があるということを感じ、発音を丁寧に学習すべきだと感じた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の留学生寮に泊まった。手配などは大学にやって頂いた。毎日清掃が入るしアメニティも交換してくれるため宿泊環境としてはかなりよかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

季節の変わり目でもあり、寒暖差が大きかった。食事は大学の食堂が安くて美味しくて便利。お金は最初に両替した分で足りた(2000元)。

| |
|---|
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 自分自身には何もなかったが、他大学の参加者で迷子になった人がいたので、スマホが通じなかったり、中国語に自信のない人ははぐれないようにするべき |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空券:40000円弱、参加費:大学から支給、教科書代:200元前後(任意) |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 週末はボランティアの人と大学周辺で過ごした。あとは個人で南京に行った。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| ビギナークラスの先生は英語や場合によっては日本語も話せた。また、クラスでwechatのグループも作られていたので課題について質問することもできた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| キャンパスカードを作ればスポーツ施設も食堂も利用できた。Wifiも比較的安定していた。Eduroamも繋がった。 |

プログラムを振り返って

学習、学生交流、経済発展、将来の4つの観点から振り返る

【中国語の学習の観点】

このプログラムに参加した目的はスピーキングとリスニングの訓練がしかなかったからである。漢字が読めることで読解力と会話の能力に乖離があることは意識していたつもりであったが、授業を受けてみるとその隔たりが想像以上に大きかった。構文や表現の仕方が思いつかないというのはもちろん、構文は正しくとも発音が違って伝わらないということも多かった。読解力を中国語の能力と勘違いし、ピンインに沿った発音練習を怠っていたことを実感した。非ネイティブには通じるが中国人には通じない中国語があったりする。例えばlian xiという言葉。声調を無視すると联系(連絡の意味)と练习(練習の意味)がある。これらは本来声調が違うものであるが、非ネイティブ同士の場合は時に文脈から想像して意味が通じてしまうことがある。東大の授業内で通じ、正しいと勘違いして使っていた発音があった。今後はもっと意識して正しい発音を身につけようと思う。

上のようなことを自覚できたおかげで、授業中に積極的に発言しようという気持ちが湧いた。口語の授業中はもちろん読解の時でも発音練習のつもりで発言するようにした。一回で通じることはほとんどなかったが、間違いを直してもらうために発言しているという気持ちを持って何度も言い直した。クラスメイトも皆、積極的であったし、自分と同じ発音に苦労していたことも発言しやすい環境であった。

【学生交流の観点】

今回のプログラムでは授業外のところ、浙江大学の学生のボランティアにお世話になった。このプログラムが極めて充実したものとなったのはボランティアの方々のおかげである。西湖を始め、杭州の様々な観光地を案内してくれた。観光バスの手配や週末の個人的な新幹線のチケットの予約も助けてくれ、不自由なく過ごすことができた。ご飯と一緒にいたり空いている時間に卓球やバドミントンをしたりすることを通して親睦を深めた。メンバーの一人のがプログラム期間中に誕生日を迎えるということでボランティアも含め参加者全員でパーティーを企画した。最後の夕食後、西湖の周りを歩きながら帰ったのだが、皆美しい風景ではなくおしゃべりに夢中になって本当に仲良くなったなと感じた。ボランティアの方々には日本語専攻というわけではなく、授業や独学で日本語を勉強していた。専攻でないのにこんなにも熱心に日本語を勉強している学生がいるということが私には大変嬉しかった。今回は日本語や英語に頼ってしまう場面が多かったが、次会うときにはもっと中国語を使いたいと思った。

それぞれの授業や用事がある中で私たちに時間をさいてくださったボランティアの方々および浙江大学の先生方に感謝します。

【中国の発展の観点】

私は小学校の時に上海に住んでいたこともあり、中国には愛着がある。毎年何かしらの形で中国を訪れているが発展著しいということを実感する。今回それを最も感じたのはアリペイやwechatペイなどの電子マネーの普及であった。まさか寮のコインランドリーが電子マネーしか受け付けないとは思っていなかった。市場や路上で野菜を売っている人々も電子決済を利用していた。技術そのものよりもそれが浸透する速さに驚いた。他にも大学では顔認証システムが導入されていたりITの進化は日本以上であった。技術の進歩に振り回されている面も感じた。街中で弁当や通風の配達バイクを見かけることがしばしばであったが、時間の制約もあるせい少々荒い運転をしていた。上海での話ではあるが歩道を歩いていたら後ろからバイクが来たことがあった。車道は渋滞していた。当然これらの問題は中国側も把握しているようで、マナーに関するポスターなどは多く見られた。印象的だったのは上海の外灘で横断歩道内を渡るように保安が出勤していたことだ。土日で特段人が多かったこともあるのかもしれないが、この光景を見たのは初めてであり中国も交通マナーへの意識に力を入れるようになったのを知った。

【将来に関して及びまとめ】

参加志望書にも書いたが自分は将来中国で働きたいと思っている。毎年中国を訪れるのもっと中国のリアルを見たい、知りたいという気持ちからである。今回のプログラムを通して中国はこれからも発展していくであろうし、住みよいものになっていこうと思った。

また、中国語学習への熱意がさらに大きくなったし、留学への意欲もなんとなくしたいと考えていたものから、具体的なビジョンが伴った地に足ついたものになったとおもう。このプログラムに参加できて本当によかった。

②参加後の予定

HSK6級の獲得。M1時に留学したいと考えているのでその準備。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷っているなら参加すべき

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

乗り換えアプリの中国版「Metro Man」

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 26日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 理学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部3 |
| 参加プログラム: | 国際本部ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:情報系,教育系) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学:浙江省杭州市にある,中国でも指折りの歴史を誇る総合大学の1つ.

参加した動機

中国は近年非常に発展しており,研究環境としてもとても充実している,ということを知り合いの修士1年の方から伺い,それまでは留学先として意識していたのは欧米のみであったが,この機会に中国も選択肢に入れたいと思い,そのためにもまず短期に留学して実際の様子を知りたいと思ったため.

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流本部のウインタープログラムに応募した. おおよそ日本人は自分のことを褒めるのが苦手だが,ここで提出する書類は思い切って自分を褒めていくことが必要だと思う.

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍者が中国に行く場合,15日以内の滞在ならビザ不要であり,プログラムが14日であったため,申請していない.(オリエンでその旨伝えられた).

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

A, B型肝炎のワクチンをそれぞれ2回分接種した. A型についてはほぼ必須, B型については任意に近かったが, 念のため両方とも行った. 狂犬病ワクチンについては, 時間が足りなかったこと, 下手に打ってしまうとワクチンが十分だと誤解されて治療が行われない可能性があるということから, 打たなかった. 健康診断は行っていないが, かかりつけの歯科医に直前に行った. 常備薬については大学の保健センターで薬剤証明書を書いてもらい, 持って行った(頭痛薬, めまい止め等). イブプロフェンのアレルギーもあったので, その記載もお願いした.

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

必須の付帯海学に加入した. OSSMAにも念のため加入した(理学部は任意).

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学科窓口に行ったところ、渡航届が要るようだったので、書いて提出した。指導教員はいなかったので報告等はしていない(渡航前日に来年度のゼミの教員が決まったため、qq.comのほうにメールしてほしい旨をメールした)。単位認定は不要のつもりであったし、試験期間等とも被っていなかったのも特にその周りも問題なかった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

申請時は全くの中国語初心者(文字通り何も知らない)状況で、留学が決定した段階から学習を始めた。ほとんどを、市販の参考書を買って読むなどの自学に依ったが、一部語学学習SNSなどを活用した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

胃腸薬は持参した方が良くと中国経験者に言われた。事実必要だったと思う。ディレイ/ロストバゲージに備えてスーツケース内部外部の写真を撮った。持ち物についてはネット上のリストを確認すれば十分だと思うが、洗濯ネットとワセリン(唇の荒れを抑える)は忘れてしまった。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

語学研修 + 文化体験(企業訪問など)

学習について: たまに宿題も出たが、そこまで多くはなかったため隙間時間でこなした。中国語は授業を受けるのは初めてで、おそらく向こうの手違い(思い違い)によりある程度中国語をやったことのある下の上程度のクラスに(無試験で)入れられたが、実際授業は取ってなかったものの教科書を一周読む程度のことはしていたのでその程度のレベルの方が良かった。おかげで簡単な文をディクテーションするなどの訓練をすることができた。印象に残っている内容: ボランティアの方々が普段生活している寮を見せていただいたときに、ほとんどすべての人が何らかの日本小説(芥川等、比較的古典的なもの)を持っていらっしまったことがある。想像以上に中国では日本の様々な文化が意識されていたが、その最たる例であった。

②学習・研究面でのアドバイス

私は1週間が過ぎたあたりで若干気持ちが切れてしまったので、与えられるだけではなく、自分でなんとか日本から問題集などを持って行ってここまでは進める、といった短期目標のようなものも必要だったかもしれないと思っている。

③語学面での苦勞・アドバイス等

やはりほとんど喋れず、簡単なことすら伝えられないのは非常に大変だったため、衣食住について簡単なことは事前に下手な発音であっても練習していくべきだったと感じた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学のインターナショナル寮だった。プログラムに付属。ホテルのように毎日清掃が入るため、快適だった。ホテル程度の設備は揃っていたが、若干エアコンの効きは悪かった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

お金は1万円日本で換金していき、他に4万円を日本円で持って行った。そのほかにクレジットカード(限度額10万円)と、おおよそ3万円の買ったキャッシュパスポートを持って行った。結果、向こうでもう2万円両替したが、242元余った。クレジットカードは使っておらず、キャッシュパスポートは空港では大体使えたが、そのほかでは出さなかった。杭州はAlipay や Wechat Pay でしか支払いが認められないところも多く、日本である程度設定しておくべきだったと感じた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

浙江大学自体が大学病院を持っていることなどから、あまり心配していなかった。杭州は治安もよく、交通事故にさえ気をつけていれば危険を感じたことはなかった。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費往復: 84490円(最初の中国で、語学力も十分でなかったため、ANAを使った。中国国際航空ならもう少し安かったはず)
授業料+家賃+光熱費: プログラム費60000円だが、JASSO奨学金の60000円分で相殺された。
その他現地費: 約1000元程度
保険等: OSSMA 3240円, 付帯海学 6280円, Wi-Fiルーターレンタル 16774円 ワクチン22000円

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学国際交流本部の、JASSO奨学金付きウィンタープログラムに応募した。おそらくGo Globalのサイトで案内を見つけたように記憶している。支給額はプログラムにより異なるが、今回は60000円で、現地での食費、航空費等を除いた金額がそれで補填された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

文化活動については、西湖を見たり、地域の企業を訪問するなどした。ほとんどのイベントにはボランティアの方々が付いてきて日本語で解説をしてくれ、そうでないものについては英語ないし日本語で講演等が行われた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

日本語がある程度わかる学生ボランティア(聞いたところ選抜があつたらしい)のサポートが非常に手厚かった。2週間もの間、彼らは私たちのプログラムにほぼ全参加し、観光地での解説などを行ってくれた。プログラムの時間外も付き合ってくれており、非常にありがたかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

留学生食堂を除くほぼすべての施設は学生証にお金をチャージしてそれで払うこと以外を認めておらず、カードのない最初の数日間は非常に不便だった。使えるようになってからはどの施設も非常に快適だった。図書館等一部の施設については、我々の学生証、visitor card では入れないようだった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムの意義として、自分が外向的な人間ではないことを再確認したことがある。学術的な話題なしにはあまりうまく人と話すことができなかつたため、今後海外に行くにせよ、その時はちゃんと学術的な場面で人と話せるような立場に立ちたいと感じ、日本での勉強をしっかりとやるという気持ちになった。その上で成長したこととして、「わからないことでもとりあえずやってみる」「なんとかして自分の思いを伝えようとする」という面が挙げられる。また、日本を訪れる観光客の方々を極力何かしらでサポートしたいと思うようになった。

②参加後の予定

修士入試を受ける予定である。院試があるため、残念ながら積極的に中国語の勉強を継続する予定はない。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

特に家族旅行以外で海外に行ったことのない人は、とりあえず参加してみる、というスタンスでもいいのではないかと思う。自分が海外に合う人間なのかどうかを判断するには実際に言ってみるのが最も話が早い。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

外務省の渡航先の地域情報, 旅の指差し会話帳, 検索して出てくる海外旅行持ち物リスト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 26日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部3 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

| |
|--|
| 派遣先大学の概要 |
| <p>浙江大学は北京大学、清華大学などと肩を並べる中国トップクラスの大学である。浙江省杭州市に位置し、5つのキャンパスを持つ。文理ともに盛んな研究が行われている。</p> |
| 参加した動機 |
| <p>長期の留学の前に、海外の大学の授業形式を体験しようと思い参加した。また、中国という国自体、一度は必ず現地に行って、ありのままの姿を見たいと思っていた。また、ずっと独学での中国語学習を続けていたため、東京大学内での中国語学習者と知り合って情報交換をしてみたかった。</p> |
| 参加の準備 |
| ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) |
| <p>締め切り内に必要書類を提出すればよい。余裕を持って提出したほうが良い。</p> |
| ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) |
| <p>二週間の滞在であったので必要は無かった。</p> |
| ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等) |
| <p>特になし</p> |
| ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) |
| <p>ウィンタープログラムのオリエンテーションで紹介された保険に加入した。</p> |

| |
|---|
| ⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) |
| 特になし |
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 中国語を授業で体系的に学んだ経験が無かったため、市販の教科書を買ひ、春休み期間中に準備を行った。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 日本と電圧が違うため、電子機器によっては使えなくなることがある。小さな変圧器を持参したものの、途中で異音が鳴り出して壊れてしまった。中国語完全初学者クラスは漢字の書き方や発音練習なども多いため、それを避けたいならば春休み中に多少かじっておいたほうが良い。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 二週間の中で、各国の留学生とともに中国語の授業を受けることが出来る。授業は習熟レベルごとに分かれており、大学に着いた翌日にクラス分けの面談が行われる。授業を受けてから、自分の学習レベルに会っていないと感じクラスを変えた人もいた。大半の参加者は適切なレベルのコースに割り振ってくれる。これらの中国語コースは私たちが訪れた3月の第二週にちょうど開始する。つまり留学生用の中国語コース(半年)の最初の二週間を体験できる。これにより、授業に参加しやすく、友達も作りやすい。授業は、精読、閲読、リスニング、会話の4種類あった。教科書はキャンパス内にてセットで約300円で買える。非常に充実した内容なので、二週間の滞在ではあるが、購入したほうがよいと思う。また、リスニングの教科書にはCDが付くため、CDドライブの付いたパソコンを持参している人に音源データを抜き出してもらい、スマホなどに入れたほうがよい。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 国際生の中国語コースに混ざって授業を受けることになるため、さまざまな国から来た学生が同じクラスにいる。二週間で十分交流することが出来る。中国語で話しかければ、相手も同じくらいの中国語のレベルのため十分会話出来る。積極的に話しかけたほうが良いと感じた。授業の先生は、国際生相手の授業に慣れていて、非常にクリアな発音で分かりやすい文章で話してくれる。先生の言っていることが聞き取れないということは無かった。春休み中に準備をするのなら、現在の中国の話題をいろいろ調べておき、それに関連する中国語の単語を覚えておくと、何かと役に立つと思う。 |
| ③語学面での苦労・アドバイス等 |
| 浙江大学のボランティアの学生は日本語もしくは英語が流暢であるため、彼らと話すときに言語面での支障は全くなかった。わたしたちが話す中国語も、聞き取ってくれた。また、基本的に町の店員さんなどは普通語が通じるため、方言がきつくてわからないということはなかった。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 留学生用の寮を大学が準備してくれた。ほぼホテルのような環境が整っており、ベッドメイキング・ゴミ捨てなどを行ってくれる。有料のWifiがあるが、一部のvpnと相性が悪く、注意が必要である。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 空気はとてもきれいであった。時期が春であるため熱くもなく寒くもなく丁度よい気候で勉強できる。最寄りの地下鉄の駅が遠く、バス停も混んでいるため、荷物が多い帰りなどはすこし不便を感じた。両替は予算の半分ほどを日本の空港で両替して、残りを浙江大学近くの銀行で両替するとよい。 |

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

オートバイや原付の運転が荒いので注意が必要であった。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費が往復で4万円ほどかかった。授業料、宿泊費はプログラム代として60000円の中に入れており、JASSOの奨学金を受け取るまえに振り込む必要がある。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 60000円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

基本的に午前が授業で、午後が観光という予定が組まれる。様々な場所に連れて行ってくれるため、非常に充実している。一週目の週末には希望者を南京に連れて行ってもらった。スケジュールが組まれていない空き時間もあるため、各自それらをうまく利用して、行きたいところに訪れていた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面では、各授業の先生方が効率的な中国語学習のために最大限のサポートをしてくれた。生活面においては、浙江大学のボランティアの学生が外出などに必ず付いてきてくれて、あらゆるサポートを行ってくれた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂が一つのキャンパスの中でいくつもあり、それぞれで違うメニューが楽しめる。私たちの宿泊施設の目の前にスーパーマーケットがあり、食料品や文房具、日用品、お土産などが全てそろっている。キャンパス内にはファミリーマートもあった。両替はキャンパスから歩いて15分ほどの銀行で行えた。キャンパスの中に本屋は無かった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国の中でも特に発展した、浙江、南京、上海などを訪れる機会があるため、最新の中国事情を肌で感じる事が出来た。中国の発展の早さは実際に訪れて見ないと分からなかったと思う。言語学習環境も素晴らしく、二週間という短い期間であるものの、これからの学習の指針を教えてくれた。東大生のプログラム参加者同士でも仲が良くなり、また、浙江大学の大学生とも仲良くなった。自分たちを厚くもてなしてくれたという事実は、これからの中国観に大きな影響を与えるのではないかと。日本の報道などでいかに反中国的な報道が流されようとも、中国に大切な友達がひとりはいるという事実が、参加者の中で錨のような確固たる働きをしてくれると思う。

②参加後の予定

夏semesterで中国語の授業をとり、中華圏での長期留学の準備をする。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

これほど充実した二週間も無いのではと思うくらい全てにおいて満足感が高かったので、絶対行った方がよいと思う。二週間で得るものは想像しているよりもずっと大きい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

百度地图

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 6日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 浙江大学語学留学 | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

非常に大きい大学で、一つの町のようなキャンパスが広がっており、またそのようなキャンパスが杭州市に点在している。留学生数も多く国際色豊かであった。

参加した動機

高校時代から台湾に縁があり、大学で中国語を学び始めたが、大陸側の中国に行ったことが無かったので、中国語の勉強をするのなら一度見ておくべきだろうと考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

webサイトのどこにプログラムについての情報があるのか、何処に申し込めばいいのか、申し込みに必要なものは何なのか、それらを明確に分かるのに時間がかかった。もう少し分かりやすくても良いのではないかと感じた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要なかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

出発前に一度耳鼻科に行って、アレルギー関係の薬をもらった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険は学校推薦の保険のみ加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

一通りの文法は一年の間に習っていたので、特に準備はせず、挨拶や定型文だけ再確認した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

トイレットペーパーやティッシュボックスはあると便利。衛生面はやはり日本の方が上なので、安心できるように、必要だと思うものは持っていくべきだと感じた。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

2週間の中で、平日は午前中に留学生用の中国語講座、午後にボランティアの学生と共に博物館や企業訪問をし、中間の土日では、南京や紹興市に行った。授業は初日の面接試験で自分の学力をレベル分けされ、そのレベルに応じてクラス分けが行われた。

②学習・研究面でのアドバイス

行くまでプログラムに関する情報が非常に少なく授業形態が分からなかったが、実際に行ってみると、本当に普通の中国語学習用の授業が展開されるため、日本で授業を受けるのと同じように語学は上達する。ただし、授業は中国語で行われ、クラスメイトも様々な国出身の方たちのため、少し慣れが必要だった。

③語学面での苦勞・アドバイス等

浙江大学のボランティアは日本語が話せるうえ、ある程度の英語学習を受けているため、彼らとの意思疎通で困ることはなかったが、大学の職員や留学生のクラスは中国語のみ、またはそれと母国語のみ話せるという人が多いので、彼らと話す場面では中国語の能力が問われた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

留学生寮に宿泊した。大部分が2人1部屋で、ほぼホテルのような場所であった。アメニティはドライヤー以外があり、wifiもお金を払えば使えた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学のある杭州は空気が汚いということは無かった。東京くらい。交通機関はバスが安くて便利だった。ただ、アリペイやウィチャットペイなどが普及しており、現金が使えないパターンが多い。クレジットカードも使えなかった。中国のSIMを借りて、その電話番号を用いてアリペイなどを利用するのが賢いやり方だと思う。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

危機はなかった。

| |
|--|
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空賃が高かったが、JASSOの奨学金のおかげで参加費が賄えた。教科書が日本円で5000円ほど。食費は一日1000円ほどで十分足りる。ただ、現地でバスをチャーターして南京に行く機会があり、そこで5000円ほどかかったので思わぬ出費になった。 |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSO |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 観光がメインで、行きたい場所も誰と行くかも自分で決められて比較的自由だった。観光にはいけない人もいた。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 浙江大学の学生からなるボランティアが何から何までサポートしてくれて、非常に助かった。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 大学の設備で使うのは食堂くらいだったが、校内専用のICカードによる支払しか認められておらず、初めの何日かはボランティアに代わりに払ってもらったりした。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 語学はもちろん上達したが、2週間という短い時間であったため、飛躍的進歩とは言えない。が、日本に帰ってからの学習に対する意欲が非常に高まった。ボランティアとの関係が密になり、彼らとうまくコミュニケーションを取ろうと努力しようと思えた。 |
| ②参加後の予定 |
| 中国語の学習を続けていこうと思う。また、中国の発展を肌で感じたので、定期的に行って観察していきたいと感じた。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 是非行くべき |

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 1日

| | | | |
|------------------|----------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| | 7. その他() | <input type="checkbox"/> | |

派遣先大学の概要

中国浙江省杭州市にある大学

参加した動機

もともと中国に行きたかった。一年間中国語を学んで来て、その成果を試してみたかった。プログラム参加費が他の短期留学のそれに比べて安かった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早めに自分でどういう留学があるか調べておくべき

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取っていないので知らない

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

何もしていない

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSSMAと付帯海学に加入した。指示される通りに行動すれば問題ない。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特にない。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

二週間ほど前から授業で用いた教科書を使って勉強した。一年間第二外国語で中国語をやっていたが、語学力はかなり低かった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地のボランティア大学生に対するお土産。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

一つの構文に対していくつも例文を作る。一回の授業でたくさんの新出構文が登場するわけではないが、一つ一つ丁寧に教えて、確実に習得させるような授業だった。

②学習・研究面でのアドバイス

授業にしっかり参加していれば問題ない

③語学面での苦勞・アドバイス等

授業は英語と中国語だった。それに他国の学生と話すときは英語が中心だったので、英語への苦手意識があると苦勞する。中国人は全くと言っていいほど英語が通じないので両替をしたり鉄道のチケットを買ったりするときに苦勞した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ホテルの様な寮。二人部屋。毎日ベッドメイキングがある。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は、緯度が鹿児島とほぼ同じなので、日本とほぼ変わらない。人が集まる大きな施設は少し大学から離れていて、大学周辺は落ち着いた雰囲気。治安も良い。交通機関はほぼバス。前払いで一元で乗れるバスもある。食事はだいたい大学の食堂。安いし近い。大学の外で食べてもそれほど高くないが中国語ができないと難しい。

| |
|--|
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 治安良い。帰りの飛行機に乗る前にぶらついた上海の方がよっぽど危ない雰囲気があった。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 5万ほど |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| 6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 週末は自由行動。土曜日はみんなで南京に行った。日曜日は日本人三人と現地のボランティア学生と紹興に行った。観光目的。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 日本語を学んでいる学生がボランティアとして参加してくれた。自由時間に観光するときなどは助けてもらって非常にありがたかった。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 食堂はカードを作れば利用可能。いくつもあってどれも美味しくて安い。図書館は利用不可能。スポーツ施設は自由に利用できた。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 中国語を読むことはできるが、全く聞き取ることができないというのは衝撃的だった。浙江大学の学生と交流して、あちらは日本語を話すことも聞き取る事もできているのに、こちらはあちらの中国語を聞き取ることができないというのはとても悔しかった。 |
| ②参加後の予定 |
| 中国語を習得する。長期の中国留学があればまた参加してみたい。 |

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加するならば少しは中国語を勉強してから行った方が良い。加油！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月26日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は食堂、カフェ、体育館などが設備・値段ともに充実しており、快適な学生生活を送るのにうってつけの場所だった。浙江大学生からは、学問を楽しむ雰囲気が感じられ、知らずのうちに勉強を苦と考えていた自分に気づかされた。

参加した動機

中国語の上達。海外経験を積みたかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

現金が使えないところがあるので、支付宝もしくは微信のお金ができるようにしておくのが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ不要期間内だったので、申請なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

普段自分の使っているものを持って行くと安心。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側推薦の保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特に準備はしなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

浙江大学生に毎日お世話になったので、お土産をしっかりと準備しておくが良い。帰りに寄せ書きをプレゼントしたら喜ばれた。支付宝、微信の使い方を覚えておくべき。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

二週間という短い期間だったが、ボギャブラリーが増え、近似語の細かい使い分けを習得できる。

②学習・研究面でのアドバイス

欧米系の留学生と一緒に勉強するので、漢字のわかる日本人は診断されたレベルの一つ上のクラスでも対応できると思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ビギナーの人は漢字の「一」や「五」の書き方を練習したらしい。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学校の寮だったが、中は完全にホテルだった。ホテルにあるものは大抵あった。ただドライヤーはなし。洗濯機に現金が使えない。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食堂、カフェ、体育館などが手頃な価格で利用できる。杭州だからかもしれないが、支払いは基本的に電子マネー。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良い。春の杭州は天気が大きく変動するので、薄手のシャツとダウンジャケットの両方を持って行くほうが良い。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

現地でかなり豪華な生活を送って、ピッタリ2千元くらい。(飛行機代を抜く。)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOに6万円いただいた。大学側が奨学金の支給先をいくつか紹介してくれた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

午後のアクティビティ(企業訪問、博物館・観光地巡り等)が充実していた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

浙江大学のボランティアの生徒が毎日面倒を見てくれ、困ることは特になかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

食堂、カフェ、体育館が値段・設備とともに充実していた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

行く前は語学の上達を一番の目標にしていたが、一番の大きな収穫は人との出会いだっと思う。浙江大学生のみならず、現地で知り合った京都大学、静岡県立大学の学生など普段出会わない人たちと交流できて、気づかされることがたくさんあった。彼らとの何気ない会話の中で、自分自身についてじっくり考えさせられた。

浙江大学は、学生のための生活設備が充実しており、学問を楽しむ雰囲気も感じられた。また、女子と男子の数が同じくらいだった。東大は日本一の大学といえども、設備、雰囲気、女子比率に関しては浙江大学に劣ると思った。

浙江大学で、自分の専門分野の授業に出てみると面白い。特に文系はイデオロギー的違いが感じられると思う。

②参加後の予定

自分の専門分野へのモチベーションが上がった、中国語の勉強も続けて行こうと思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学というよりは、交流の側面の強いプログラムです。プログラム先で他の大学・国の人と出会ったら、東大の内輪にとどまらず、積極的に交流してみるといいと思います。きっと最高に充実した春休みを過ごすことができると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4 月 4 日

| | | | |
|-------------------------------------|-----------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | ウインタープログラム zju | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| | 3. 公務員 | | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:未定) | <input checked="" type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 7. その他(院に進学) | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は、浙江省杭州にある名門大学である。都市としても発展している上、自然も残っており、学習するには最適な環境のように思われる。空気もきれいで、気候も日本と似ている。

参加した動機

元々アジアの雰囲気が好きであり、自身が暮らしている学生寮に多数の中国人留学生が在籍しているため、中国にずっと親しみを感じてきたから。加えて、2年前に中国を旅行した時に中国語が使えず、かなり歯がゆい思いをしたため、一度国内で学習をした後、中国語に留学してみたいと考えていたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

全ての手続きを時間に余裕をもって行うこと。私のようにギリギリに申し込み、予約等をしていると精神的にかなり追い込まれることになる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは取得していない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

何の準備もしなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

参加条件となっていた保険とOSSMAIには加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

渡航情報届を駒場に提出した。

| |
|---|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 半年前に勉強していたが、留学の準備としてはほとんどしていない。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| トイレ用にペーパー。学校や外のトイレはペーパーが無いところが多い。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 授業と用意されたエクサカーションがメインであるが、エクサカーションの参加は任意となっており、興味のある授業に出てよい。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 自分にあったレベルの授業を選ぶこと。2週間で学べる範囲には限りがあり、クラスメイトとの交流もあるので余裕を持って学習を進めるとよい。 |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| ボランティアがかなり助けてくれたのであまり苦勞はしなかったが、タクシーを利用するときなどは苦勞した。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 大学寮の1室に2人で2週間滞在した(宿泊費はプログラム費に含まれる)。1日延泊したが、2人部屋1室で238円/日とかなり安かった。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 気候は日本と変わらない。少し行ったところにダウンタウンもあるが、治安はどこもよい。駅は少し遠いが歩いて行ける距離に地下鉄もある。タクシーまたはバスを利用するのが便利だと思われる。公共交通機関はどれも破格に安い。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 日本並みに安全であった。病院はキャンパス内にいくつかあったが、利用していない。水道水は飲み込まないようにしたが、それ以外は特に気にしていない。精神面では、現地にかなり親しい友人を作ることで、飽きの来ない刺激的な時間を過ごすことを心掛けた。結果、帰国するのが嫌になってしまったが。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空機代と食費などの生活費は自腹。航空機は値段がすぐ上がるので、早めに予約する方がいい。プログラム期間の宿泊費と授業料は奨学金が出た。期間が短いため教科書を買う必要はなく、いかに英語で優しい留学生に見せてくれるよう頼み込めるかがポイント。 |

| |
|---|
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSOから6万円の奨学金を頂いた。本当にありがとうございました。 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 現地の中国人ボランティアと多くの時間を共有し、密な関係を築いた。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 非常に頼りになるボランティアが常時付いてくれたおかげで基本的に何不自由なく過ごせた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 図書館は自習などに利用でき、卓球場や体育館なども使用できる。食堂はキャンパス内にいくつもあり、Wifiも登録すればキャンパス内のどこにいても接続できた。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 外国特有のエグゾチックな刺激に触れ続けた2週間だった。帰国後、住み慣れた日本での生活は無味乾燥に思われ、1週間無気力に陥った。エクサカーションが多く、期間も短かったため、語学力の伸びはあまり大きくないが、語学に対するモチベーションや海外に出たいという精神的な面はかなり成長したように感じられる。やはり日本に留まっている限り、日本語以外を話す必要性はあまり感じられず、生活も安定しているため刺激も感じないが、一度海外に出てみると毎日が刺激であふれ、短い期間ではあったが生きているという感覚を鮮明に感じられた。 |
| ②参加後の予定 |
| 3年生では継続して中国語に触れるために授業を履修する予定であり、留学中に助けてくれたボランティアが日本に来る予定なので全力でサポートしようと思う。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| ただ参加するだけでもモチベーションを上げられると思うが、自分なりに海外に出た時毎回することなど個人としての目標もしっかり定めたうえで現地入りする方が有意義な時間を過ごせる。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| 特に使用していない。『快速マスター中国語』(語研)は持参した。 |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年3月31日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input checked="" type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国でナンバー4に入る大学。近くには世界遺産の西湖があり静かな雰囲気でした。

参加した動機

将来的に中国への留学を考えていたので、中国の大学を実際に見にいきたいと思ったので。また第二外国語で一年間勉強してきた中国語がどれほど通用するのか確かめ、さらなる上達の契機としたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出物の締め切りには気をつけてください。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

二週間の滞在だったのでビザの必要はありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に無し。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学部で加入が必須とされた保険とOSSMAに加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に無し。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

一年間中国語を勉強していて、昨年の12月にHSK4級を取得していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

さけるグミがお土産として好評でした。そのCMが面白く、中国で話題になっていたようです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は授業、午後はアクティビティがありました。授業は浙大に半年から一年留学に来ている学生たちと同じ授業を受けます。私のクラスでは英語より中国語の割合が多かったです。午後は浙大学生ボランティアと共に杭州近郊を観光したり大学内を案内してもらいました。設定されているアクティビティ以外にもボランティアの学生は誘えばきてくれて、面倒見はよかったという印象です。午前中のクラスで仲良くなった友達と出かけることもありました。

②学習・研究面でのアドバイス

プログラム中、小さいノートを携帯するようにして、分からない単語があればメモして置きあとで見直すようしていました。

③語学面での苦勞・アドバイス等

自分の言う事が通じても返事が理解できないと言う事がかなりあったので、リスニングの勉強は重要です。お店の注文とかだと流れが分ればなんとかなることもあります。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

東大の学生と二人部屋。ルームキーは二人で一つ。毎日掃除が入り清潔でした。一泊延長しましたが、二人で236元だったので外のホテルなどと比べるとかなり安いです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気温の変化が激しいのではおれるものがあると良い。食堂は安くて美味しい。私のお勧めは葱油拌面と言う油そばのようなものです。1.5円で量もそこそこあり朝は毎日それを食べていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安よし。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費3万円、生活費4万円くらいです。航空券は早めにとった方が安い。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから6万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

大学内にスポーツ施設が充実しているのでそこで遊んでいました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

学生ボランティアは親切で何かと助けてもらった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

上に書いた通り。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

中国語の能力自体は単語を覚えたくらいで、それほど上がったとは思っていません。しかし現地の方々と交流する中でこれから学習を継続していこうという気概を高める事ができました。

②参加後の予定

HSK5級を夏までに受験しようと思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国への留学を考えているのであればお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に無し。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 27日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 東京大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国の大学の中でもトップクラスの学生が集まる大学であり、長い歴史を持つ大学。

参加した動機

自分の中国語の実力を高めることと、ここ最近発展が著しい中国の現状をこの目で見たいと思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

志望動機をきちんともつ。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは申請していないのでわかりません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

薬はできるだけ種類を多く持って行ったほうが良い。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学やOSSMAの登録は少し時間がかかるので早めに申請したほうが良い。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

| |
|--|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 中国語を1年間授業で学んだ。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| ハンガー。また滞在先が中国の場合はアリペイやウィーチャットペイの登録方法を調べたほうが良い。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 授業はクラスにもよるが基本的に中国語で行われる。予習・復習をしないと理解が半分くらいになってしまうと思う。印象に残っている内容は、京劇を見たことと杭州のナイトショーをみたこと。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 分からないこと、疑問に思ったことはすべてボランティアの生徒にぶつける。 |
| ③語学面での苦労・アドバイス等 |
| とにかく中国語のリスニングが大変だった。話す速さは授業の時の早さとは比べ物にならない。また、寮のフロントの人は英語が通じないので、チェックアウトの時などは苦労をした。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 寮 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 寒暖差が激しかった。大学周辺は食べるところが多くあり、交通の便もよかった。お金については、現金を三分割して持っていた。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 夜中に一人で外に出ない、裏路地には行かないなど。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 8万円 |

| |
|--|
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| 6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 自由時間は観光をしていた。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 大学の中で基本的に何でもそろえることができる。ボランティアの生徒たちが献身的にサポートしてくれた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| ほとんどすべての設備が備わっているが、自動販売機やランドリーでは現金が使えない。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 語学に対するモチベーションが上がったとともに、中国の発展の表と裏を体感することが出来た。 |
| ②参加後の予定 |
| HSK5級の受験。英語と中国語の勉強。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 自分自身、初めは参加するかどうか迷っていたが、今では参加してよかったと心から感じている。とてもおススメです。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| 特になし |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2018 年 3 月28 日

| | | | |
|------------------|------------------|---------------|------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等： | 経済学部 | 学年（プログラム開始時）： | 学部2 |
| 参加プログラム： | ZJU | 派遣先大学： | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職（希望）先： | | | |
| | 1. 研究職 | | 2. 専門職（医師・法曹・会計士 |
| | 3. 公務員 | | 4. 非営利団体 |
| | ✓ 5. 民間企業（業界：金融） | | 6. 起業 |
| | 7. その他（ ） | | |

派遣先大学の概要

中国有数のグローバルな大学。

参加した動機

中国語を学ぶことに興味を持ち、また中国という国に興味を持ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

万一のことを考えて早め早めに準備するべき。このプログラムの手続きは比較的容易であった。中国語初学者は語学の準備も勧める。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

不要

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

常備薬は必須。食生活の変化により腹を壊す人が多くいたので、ビオフェルミンなどを持っていくと安心。花粉は飛んでいないため花粉症の人は日本より快適に感じると思う。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学に言われた通りに手続きを進めれば良い。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

海外渡航届を提出した。所属学部によって異なるので要確認。

| |
|---|
| ⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等） |
| 初学者なので、渡航前2か月ほど集中的に勉強した。少しでも勉強すると楽しめるが増えるので、時間のあ る人には学習を強く勧める。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| スナックなどのお土産は別れの際に渡せると良い。特別必要なものはないが、中国のネット規制を考慮して、人 によっては対策が必要かもしれない。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等） |
| 午前中は英語で留学生とともに中国語を学ぶ。予習復習の量はクラスによるが多少はある。午後は浙江大学のボ ランティアと観光に行ったり、クラスメイトの留学生と出かけたりと、自分次第で様々なことができる。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 授業で学んだ中国語でボランティアと話せると、とても楽しいと思う。 |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| 中国の学生は英語を話せるが、それ以外は基本的に英語が全く話せないなので、トイレ、などの最低限生活に必要な 中国語は知っておくべき。 |
| 生活について |
| ①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など） |
| 東大生と2人部屋の寮に滞在した。毎朝清掃が入るので快適。 |
| ②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など） |
| 中国では現金が使えない場面が少なからずあるのでアリペイが使えるボランティアか留学生の友達に頼まざるを えない。気候は東京とあまり変わらない。大学内の学食は信じられないほど安い。 |
| ③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など） |
| 常備薬を持っていけば問題ない。レストランのトイレにトイレットペーパーがなかったのはショックだった。 |
| ④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算） |
| 航空賃往復30000円、現地で使った総額30000円。基本的に中国は物価が低いので財布に優しい。 |

| |
|--|
| ⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など） |
| プログラムに参加する人のほとんどがJASSOからの奨学金を受給していた。手続きはそれほど煩雑ではなく、審査も厳しくないで安心。60000円受給し、プログラム費用が60000万円であったため、大変経済的なプログラムだと思う。 |
| ⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など） |
| 2週間しかなかったので、基本的に授業と観光しかしていない。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等） |
| 日本語が話せるボランティアがあらゆることで助けてくれたため、留学生活を楽しむことができた。 |
| ②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等） |
| あらゆる施設が整っている。ちなみに卓球場で卓球ができる。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 一番の意義は素晴らしい友達を多く作れたこと。留学にはアクシデントがつきもので、うまくいかないことも少なからずあったが、その中で様々な人と関わり多くの価値観を学ぶことができた。語学面に関しては、たったの2週間で最低限の中国語会話を楽しく学ぶことができた。精神的に成長することができ、また中国語に対するモチベーションを著しく高めることができた。現在、このプログラムで出会った友達とHSKの受験に挑戦している。 |
| ②参加後の予定 |
| 中国語を流暢に話せるよう意欲的に学ぶ予定である。また、私が中国の駅で英語が通じず苦労したため、日本にいる外国人を積極的に助けることを心がけようと思う。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 中国語が話せる人も話せない人も、中国が好きな人も興味がない人も、本当に素晴らしい体験ができるため是非参加してほしいと思います。難しいことを考えずに楽しんでください。その過程で多くのことを学べると思います。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4月 6日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 農学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国で最も歴史のある大学の1つで、浙江省の省都である杭州市の西湖地区にある。略称はZJU

参加した動機

第二外国語はフランス語だったが、中国の歴史や文化に興味があったので第三外国語として勉強していた。全て独学だったので、一度中国語の授業を受けたいと思っていた。本ウィンタープログラムは、中国語を勉強したい全ての人を対象にすると謳っていたので、ピッタリだと思った。また授業料6万で、奨学金が6万円出るという点も良いと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課の方が事前ガイダンスをしてくださり、何の問題もなかった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

2週間であれば必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

教養学部で指定されたものに入りました。個人ではなし。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

| |
|---|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| HSK3級レベル。リスニング能力は皆無。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 当たり前ですが、事前に可能な限り勉強して行ったほうが現地の生活が充実します。あとは、アリペイやウィーチャットの電子マネーを日本で登録していけば良かったと後悔しました。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 午前中は語学の授業。語学はリスニング、スピーキング、文法の3種類。リスニングは自分には難しすぎて、役に立たなかった。文法は勉強になった。全て座学だった。午後は観光系のアクティビティー。西湖に行ったり、周辺の博物館に行った。SUPCONという会社を訪問したり、宋城というアクロバティック系なショー見学もした。もともと京大にいたらしいマー先生という方の講義も聞いた。週末は南京に行ったり、人によっては上海、蘇州、紹興に旅している人もいた。アクティビティーは参加自由だが、基本みんな参加していた。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| リスニング難しい。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 浙江大学玉泉キャンパスの留学生寮に泊まった。ウィンタープログラム参加者は全員そこに住んだ。1人の例外を除き、2人部屋だった。部屋はホテルのように快適で、毎朝シーツとバスタオル、アメニティーの交換があった。ポッドもあった。寮の共同洗濯機がアリペイかウィーチャットでしか支払いができなかった。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 2月末～3月初:日本よりは少し暖かった。大学周辺は飲食からスーパーまで色々お店がある。大学の食堂は、留学生食堂を除いて現金が使えない。専用の電子カード(通称「ご飯カード」)を発行する必要がある。ボランティアの学生に聞いて発行できた。またバスやスーパー、飲食店などはアリペイ・ウィーチャット支払いが普通なので、日本で登録しておくの良い。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 浙江大学内は本当に平和。みんな23時くらいまでカラオケに行った程、平和。 |

| |
|--|
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空費5万円、教科書170元。食費は大学内で食べれば、かなり安いです。自分は葱油拌麵(1.5元)と豆奶(1.5元)ばかり食べていました。 |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSOから6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| バドミントンや卓球ができます。先述したアクティビティーがあります。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 浙江大学のボランティアが優しい。基本何でも相談に乗ってくれます。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 卓球場やバスケットコート、バドミントンができます。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 私は中国語を集中特訓するプログラムだと持って参加しましたが、実際は語学50%、アクティビティー・観光50%という感じでした。東大の他に京大、静岡県立大学の学生もいたので、良くも悪くも「中国語しか使えない環境」ではないです。便利でしたが、自分から積極的に中国語を話して行く必要があると感じました。ボランティアの方々はとても優しく、片言の中国語でも聞いてくれて教えてくれます。 |
| ②参加後の予定 |
| |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| 特になし |

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018 年 4月 6日

| | | | |
|------------------|---------------|---------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 農学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| | ✓ 3. 公務員 | | 4. 非営利団体 |
| | 5. 民間企業(業界:) | | 6. 起業 |
| | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国で最も歴史のある大学の1つで、浙江省の省都である杭州市の西湖地区にある。略称はZJU

参加した動機

第二外国語はフランス語だったが、中国の歴史や文化に興味があったので第三外国語として勉強していた。全て独学だったので、一度中国語の授業を受けたいと思っていた。本ウインタープログラムは、中国語を勉強したい全ての人を対象にすると謳っていたので、ピッタリだと思った。また授業料6万で、奨学金が6万円出るという点も良いと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課の方が事前ガイダンスをしてくださり、何の問題もなかった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

2週間であれば必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

教養学部で指定されたものに入りました。個人ではなし。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

| |
|--|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| HSK3級レベル。リスニング能力は皆無。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 当たり前ですが、事前に可能な限り勉強して行ったほうが現地の生活が充実します。あとは、アリペイやウィーチャットの電子マネーを日本で登録していけば良かったと後悔しました。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 午前中は語学の授業。語学はリスニング、スピーキング、文法の3種類。リスニングは自分には難しすぎて、役に立たなかった。文法は勉強になった。全て座学だった。午後は観光系のアクティビティー。西湖に行ったり、周辺の博物館に行った。SUPCONという会社を訪問したり、宋城というアクトパティック系なショー見学もした。もともと京大にいらしいマー先生という方の講義も聞いた。週末は南京に行ったり、人によっては上海、蘇州、紹興に旅している人もいた。アクティビティーは参加自由だが、基本みんな参加していた。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| リスニング難しい。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 浙江大学玉泉キャンパスの留学生寮に泊まった。ウィンタープログラム参加者は全員そこに住んだ。1人の例外を除き、2人部屋だった。部屋はホテルのように快適で、毎朝シーツとバスタオル、アメニティーの交換があった。ポッドもあった。寮の共同洗濯機がアリペイかウィーチャットでしか支払いができなかった。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 2月末～3月初:日本よりは少し暖かった。大学周辺は飲食からスーパーまで色々お店がある。大学の食堂は、留学生食堂を除いて現金が使えない。専用の電子カード(通称「ご飯カード」)を発行する必要がある。ボランティアの学生に聞いて発行できた。またバスやスーパー、飲食店などはアリペイ・ウィーチャット支払いが普通なので、日本で登録しておくが良い。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 浙江大学内は本当に平和。みんなで23時くらいまでカラオケに行った程、平和。 |

| |
|--|
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空費5万円、教科書170元。食費は大学内で食べれば、かなり安いです。自分は葱油拌麵(1.5元)と豆奶(1.5元)ばかり食べていました。 |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSOから6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| バドミントンや卓球ができます。先述したアクティビティーがあります。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 浙江大学のボランティアが優しい。基本何でも相談に乗ってくれます。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 卓球場やバスケットコート、バドミントンができます。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 私は中国語を集中特訓するプログラムだと持って参加しましたが、実際は語学50%、アクティビティー・観光50%という感じでした。東大の他に京大、静岡県立大学の学生もいたので、良くも悪くも「中国語しか使えない環境」ではないです。便利でしたが、自分から積極的に中国語を話して行く必要があると感じました。ボランティアの方々はとても優しく、片言の中国語でも聞いてくれて教えてくれます。 |
| ②参加後の予定 |
| |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| 特になし |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| 特になし |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 5日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | 2017年度国際本部ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界: マスコミ) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は浙江省杭州市西湖区に位置する、中国で最も早く創設された四大学府の一つ。1897年に求是学院として設立された。精華大学、北京大学に次ぐトップレベルの大学。東京大学、京都大学など日本の多くの大学と協定を結ぶ。

参加した動機

長期留学を考えていたが、手続きが上手くいかなかったこと、迷いが生じたことから断念した。その折にウインタープログラムの募集要項を見たところ、かなり短期で比較的気軽に参加できそうだったため、志望した。また、中国には何かしらの形で訪れたいと思っていたので、奨学金である程度費用を賄った上で中国に行くことができるのは魅力的だった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

×切がまだ先だと思っていると、案外書類作成・収集に時間がかかって切羽詰まるので、早め早めの準備を心掛ける。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

15日以内の滞在であればビザは必要なかったため、取得しなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に何もしなかったが、これを反面教師として、念には念をいれて準備した方がよい。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大の本部の方で紹介して頂いた保険に入った。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

前期教養学部は不要だった。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

第二外国語で中国語を選択。一年次は必修に加え、Aセメスターで中級作文と中級会話を履修。二年次は中国語の授業は履修せず、自習していた。HSKは一年次の秋に3級を取得したのみで、留学時もせいぜい4級レベルだったと思われる。しかも11月あたりから全く中国語に触れていなかったため、かなり語学レベルが低い状態だった。なお、英語は全く話せない。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

変換プラグの持参、wifiのレンタル、vpnアプリのインストール

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

まずは授業について。自分は中級クラスだったが、内容は駒場の一年次にやる文法の延長のようなもの。駒場の教科書よりもやや詳しい程度のレベル。一年勉強していれば、全く難しくはない。しかし、いかんせん先生初め皆中国語をしゃべるので、それらを聞き取るのが大変だった。ちなみに他国から来ている留学生たちは、リスニング力は高いのに発音が稚拙で、日本人とは真逆だと感じた。予習・復習はする必要性は感じないが、宿題は出る。それもわずかな量なので、心配無用。午後はボランティアの浙江大学の学生と、東大の学生皆で観光に行く。一人でふらふらと行動したい人には向いていないと思う。

②学習・研究面でのアドバイス

初日に行われる個人面談で、クラスのレベルが決まる。自分のレベルに合ったクラスに行けば、難易度で苦労することはない。授業の良いところは、街中とは違った聞き取りやすい中国語が聞けること、他の留学生が中国語を学ぶ姿勢を目にできることだと思う。文法を覚えなきゃ、このリスニングの問題はどうしてこの選択肢が正解なのだろう、といった類のことも勿論大事だが、上記のような、普段とは異なる環境を享受するのも肝要だろう。

③語学面での苦労・アドバイス等

よく言われることだが、語学のレベルは留学する前に上げれば上げるほどよい。現地に行ってから、午前中は授業、午後から夜にかけて観光で、自分で持ってきたテキストを進めるなどの時間はほぼ無いし、そもそも間に合わない。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

本部から案内の有った、キャンパス内の寮の2人部屋に宿泊する。家賃はプログラム費用に含まれる。部屋は、寮というよりはホテルに近いが、ホテルと聞いて期待して行くとがっかりするレベル。多くの授業が行われる教室まで徒歩2分なので安心。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は、留学直前の東京より少し暖かかった。大学周辺にはそこそこ飲食店があり、人通りもある。バス停も遠くはないが、地下鉄の駅からはかけ離れているので、利用する場合はバスで向かう必要がある。なお、団体行動のときは浙江大学のバスが出るので心配いらない。食事に関して言えば、日本の中華料理よりは油分が多いので、数日経つと嫌になってくるかもしれない。中国では银联というクレジットカードしかほぼ通用しないが、保険目当てにクレジットカードを作成するのはよいだろう。お金の管理は、デビットカードで人民元を引き出す方法、日本円を持って行って、現地の銀行で両替してもらう方法を併用するのがいいのではないかと。

| |
|--|
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など) |
| |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| |
| ②参加後の予定 |
| |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| |

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 3月 25日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 2017年度国際本部ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国浙江省杭州にある浙江大学。ここは中国国内でも北京大学・清華大学に次ぐ中国有数の大学で、上海の復旦大学と同じレベル。キャンパスが7つ(断定はできません)くらいあり、私たちが授業を受けたキャンパスは「玉泉校区」。広さは、東大の駒場キャンパスと本郷キャンパスを合わせたくらいの大敷地を有する。恐らく中国内の有数の大学のキャンパスはこれくらい広いのが普通だと思われる。食堂が5つ以上ある。寮(中国人学生が居住するものと留学生が居住するもの)がかなりあり、高い。車やバイク・自転車が頻繁に通っている。交通事情は(日本人の目線からみれば)少し危険。しかし、超市や床屋、パン屋、餐厅、印刷屋(コピーとか)、果物屋、銀行などなんでも揃っている。大学内で普通に暮らせる。

参加した動機

もともと政治的関心や言語的興味から中国・中国語に興味があり、第二外国語では中国語を選択していた。そこで、自分の中国語レベルがどれくらいか自覚するため、そして隣国の生活事情や発展事情を知るため、このプログラムに参加した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

比較的簡単。パスポートは早めに取るのがいいです。自分は五年分のパスポートですが、今回参加した人の多くは十年分でした。保険とかの振込は早めに。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人であれば中国内に15日間、ビザなしで大丈夫です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

春だったので、花粉症が心配で花粉症の薬を持って行きましたが、どうやら花粉は飛んでいないようです。全く花粉症にならなかった。僕のルームメイトはお腹を壊したので、腹痛の薬とか持っているといいかも。中国の食の安全性は日本と比べると悪いです。そして私はプログラム中食事はほとんど脂っこい肉料理を食べていたので、少し腹を壊しました(薬を持っていなかったので、スーパーでヨーグルト大量に買ってビフィズス菌の力を借りました)。マスクは持って行きましょう。春なので杭州や上海は大気汚染はあまりない(ただ、遠くをみると霞んでいる)ですが、あると断然いい。

| |
|--|
| ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) |
| 大学から要求された保険 |
| ⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) |
| 教養学部前期課程は特になし |
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 第二外国語で一年学んでいたレベル。語学学習も普通の東大生と変わりません。いたって平均的なレベルです |
| ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| マスク 腹痛用の薬 wifiは大学が提供(30円?)してくれるので大学内で携帯やパソコン使うには問題なし。大学外で使う場合は、ポータブルwifiを持参すること(詳しくはインターネットで。空港でもらえます)「地球の歩き方」という本(地図や観光名所、レストラン、ホテル、インターネット事情、交通事情、海外旅行の仕方など海外に行くなら必須のことがほとんど全て書いてあります。値段は2000円もしません) 中国ではLINE・twitter・google(つまりgmailも)など使えないので、事前に無料のVPNアプリをインストールしておくこと! そうすれば中国国内で日本と同じように携帯やパソコンが使える。(この辺りのことはインターネットに結構書いてあるので参考にするといいですよ。ちなみに、大学生協で買ったPocketWiFi 501HWは中国国内で使用できません)「百度地図」「wechat」は絶対にインストールしておくこと! これ以外であると便利なのは、「Pleco」というアプリ、これは中英辞書みたいなもの。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 授業は主に中国語と英語で行われます。でも全然聞き取れます。ですので心配ご無用。ただ、听力課は地獄です。全く聞き取れない。日本人独特だと思うのですが、日本人は漢字が分からないと中国語が分からないので、リスニングはきついです。例えばzhuangと聞こえてもそれが何の漢字か分からないと何を意味しているか分からないですよ。なので事前に少しリスニングの勉強(中検3級程度)をしておくのと良いかも。復習や予習はしませんでした。宿題も簡単でした。日本人は漢字が理解できるので少し楽です |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 特になし。事前にリスニングの勉強をすれば結構良いですよ |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| 英語は話せると便利(一緒に授業を受けるのはいろいろな国の人たちです)ですが、杭州では全く使えません。店員やサービスは英語を何があっても話しません。どうすることもできないので、アドバイスはありません。値段くらいは一度で聞き取れるくらいの聴力があるといいですよ。あと、中国人の話すナチュラルな表現を聞いてみるといいですよ |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 部屋は二人部屋。ホテルのような内装。勉強機はありません。 |

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交B48:J49通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大気汚染は春なので無いです。しかし、南京に旅行した時は割とかすんでいた。マスクはなくても大丈夫ですがあると良いかも。バスや地下鉄の運賃は劇的に安いので(2元から4元くらい)積極的に使用しました。しかし、杭州では使えるのはコインと5元札と10元札です。上海では20元札や50元札が使えます。バイクには気を付けて!クラクションが大音量で鳴ります。これは中国の空港に着いて少し道路に出てみればすぐわかります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

上述したように、大気汚染は春なので心配いらないが、マスクはあると良いですよ。なくても構いません。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

5、6万くらい中国に持って行きました。これでも割と余る方です。3万でも大丈夫かもしれないです。上海や南京で観光していたので少し多めに持って行きました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給しました。6万

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

プログラムにかなりいろいろな活動が含まれていましたので充実しました。土日は南京に行ったり杭州を散策しました

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特になし 現地大学生のボランティアも英語や日本語を使って色々話してくれました。結構十分です

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

上述したように食堂は多くあり、値段も安いです(10元くらい)。PC環境も大学のwifi買って(東大のU-tokyo wifiみたいなやつ)十分。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分のポリシーである「百聞は一見に如かず」を実践できてよかった。これからの時代、一体何語が大切か、そして若い頃から始めるとどれだけ大切か改めて感じた。このプログラムに参加して、中国という国のある地方のある一定の時期の生活事情や社会事情を体験できたので、今度は別の地方の別の時期の社会事情や文化等々を体験したいと思った。このプログラムは単なる語学勉強のためでなく、単なる観光や交流のためのものでもなく、自分で自由に計画して自分のやりたいことを、時には現地人の助けを借りながら、行える十分満足のいく内容です。

②参加後の予定

上述したように、二年生のいつか、北方に行ってみたい。もしくは、後期課程で交換留学したい

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

自分がいるところは日本でないことを強く意識し、日本で当然とされていることは外国では通用しないことを常に意識すること。そうすると日本人の目線から見ていたことが現地人の目線から物事が見えてきます。いくら理解不可能なことがあっても、それは外国人である日本人から見た見方に過ぎないことを意識すること。中国は日本と真逆なこともあれば、似通ったところもあり、それこそ「中国」であり、それ以上でもそれ以下の何でもない。そして、中国の場合、地域的違いが大きいので(例えば言語や食事、マナー、インフラ整備など)、それを味わえるとともに身のあるプログラムになります。日本のメディアが伝えている情報は正しいです(大気汚染や食の安全性など)が、情報の受取手である我々が過剰解釈してに過ぎません。自分の視野を広げるために、海外には是非出てみてください。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方 中国のインターネット事情に関するホームページ 海外でのスマホ事情

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月27日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 浙江大学 | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input checked="" type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江省の省都である杭州市に位置する大学。

参加した動機

東京大学を出て、現状と大きく異なる環境に身を置くことで、普段得られない学びを得、人生が豊かになると考えたから。同時に、将来中国で働く可能性があるから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早めにやっておくのが良い

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

何も準備して行かなかったが、寒さと疲れで体調が悪くなったので頭痛・腹痛に備えて薬を持っていけばよかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学研災付帯海外留学保険、OSSMA

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

| |
|--|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 中国語の授業を多く履修した。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 常備薬 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 午前中に授業、午後アクティビティがあった。授業は言語が中国語であるだけで、駒場の中国語の授業とそれほど変わらない気がした。授業ごとに宿題が出たが、量は多くない。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 中国語を学習するクラスが、レベルごとになっているので、日本のいる間にも中国語のレベルを上げておけば、より高度な内容を学習できる。 |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| 中国語が話せないと、留学生との会話は英語になるが、現地の店員などはほとんど英語を理解しない。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 浙江大学の留学生寮に滞在した。2人1部屋で東京大学の学生同士で自由にペアを組んだ。ホテルのように毎日清掃が入るのでとても快適に暮らせた。洗濯機はフロントに頼めば使える。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 寒暖差が激しかったので寒さ対策はした方がよい。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 治安もよく、大学内に病院もあるのでボランティアの学生に頼めばつれていってくれる。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 航空費5万円、食費・交通費・娯楽費2万5千円 |

| |
|---|
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSO 6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 週末に南京、帰国の際に上海を観光した。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 浙江大学のボランティアの学生が困ったことがあれば案内してくれた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 図書館の自習室はIDカード的なのがないと入れない仕様だったが、短期の留学生だと説明したら使わせてくれた。大学構内なら大学のWiFiが使えるが、特に図書館の自習室はネット環境が良い。大学構内の卓球場も受付でラケットと球を借りて自由に使えた。食堂を利用するにはIDカードが必要だったが担当施設で学生証とパスポートを見せればカードが作れた。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 今回のプログラムに参加して得た最大の収穫は中国語を意識高く学ぶ人たちの間に身を置き、より高みを目指そうと思えたことです。東京大学から同じプログラムに参加した人々や同じ授業を受けている留学生と深く関わり、それぞれの理由で中国語を学ぶ中で、自身は何を目的に学んでいるのか、どこがゴールなのか、といった疑問を考えさせられる良い機会となりました。 |
| ②参加後の予定 |
| 3ヶ月後に中国でインターンシップをする予定で、より実践的に中国語を使うつもりです。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 中国の大学の雰囲気の良いプログラムだと思います。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| なし |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月28日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部1 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は浙江省杭州市に位置する、中国最高峰の大学の1つであり、特に理系に強いのが特徴です(7つある学部のうち、5つが理系または理系寄りの学部です)。浙江省にアリババやSUPCONなどITに特化した企業の本社が数多く立ち並び街全体が勢いと活気に溢れており、浙江大学が理系に強いのも現地に行けば納得することができるかと思います。

参加した動機

1番の理由は単純に1年間中国語を勉強した成果を試したかったからです。ですが試したかったなんてのは傲慢で、初日の全部中国語で行われる授業で身の甘さを痛いほど思い知らされました。また、個人的に中国と日本が長い歴史を共有しながらも現在は国家同士としては対立してしまう現状に興味があり、個人の倫理と集団の倫理のずれを五感で感じたかったからという理由もありました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

志望動機に関しては個人の思いを素直にぶつけたいと思います。私は第二外国語として中国語を選択していましたが、そうでない参加者も多くいました。締切日までに必要な書類がいくつかあるのでその確認だけはしっかりすると良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

今回ビザは必要ありませんでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

私の場合特に準備はしていませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

JASSOとOSSMAIに加入しました。前期教養学部であったため、加入が義務付けられていました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

成績表、誓約書、志望動機を提出しました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

1年生の間の第二外国語として学んでいた程度です。11月に中国語検定4級に合格しましたが、HSKなどは全く受けていませんでした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ガイドの方が自分たちの時間をさいて懇切丁寧な対応をしてくれます。日本からお土産や色紙などを持っていくと良いと思います。また、中国語の勉強に関してはできるだけしておいたほうがいいと思います。自分はテスト後にほぼ全知識忘却した状態でプログラムに参加してしまったことを少し後悔しています。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

通年で行われている授業に2週間だけ一緒に授業を受けさせていただく、というスタイルでした。授業は当然ですが全部中国語です。特に印象に残っているのはリスニング(聴力)の授業です。他の授業(リーディングなど)は生徒がわからなそうにしていたら先生が英語を使ってくれましたが、この授業に関してはそんなのお構いなく全て中国語です。先生が問題文を読んでいるのか、生徒に問題文の説明をしているのか、全くわからない時もありましたが、一番力になった授業だったと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

現地大学のボランティアと積極的に関わるようにしましょう。また、プログラム中に博物館に行く機会が多かったため、中国史を少し漁っておくといいかもしれません。

③語学面での苦労・アドバイス等

自分の語学レベルにあったクラスに振り分けられるので授業はとても良い難易度です。ですが日本人という機会も多いため、積極的に中国語を使って行かないと日本語だけを話してプログラムを終了させてしまうことまでできてしまうので、積極的に中国語を使っていきましょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

浙江大学の留学生寮に宿泊しました。とても綺麗でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

大学内にスーパーやレストランなどもあるため、とても暮らしやすいです。交通機関は日本とは比べ物にならないくらい値段が安いです。お金はすべて現金で管理しましたがwechat payやアリペイなどがあると便利だと思います。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は問題ありませんでした。健康管理も特に意識した点はありませんが、やはり楽しむ心を持つことは大事だと思います。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券が45000円程度、現地で使ったお金が3万円程度、参加費用が6万円程度でした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから6万円いただきました。大学のプログラムが参加を義務付けていました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

留学生や日本の他の大学からきた学生と卓球やバドミントンをしました。週末は南京など少し遠出もしました。また、午後のエクスカージョンでは博物館や名所を多く見学しました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語が通じない点が少し不自由でしたが、その他の点はサービス満点でした。先生も生徒も、皆優しく接してくれました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

そもそも大学の規模が日本と比較にならないくらい大きかったです。図書館は行きませんでした。スポーツ施設ではどんなスポーツもできるし、食堂は大きく広く安く(ほぼ全部中華でしたが)、美味しかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムの意義は一般には語学の向上と言われるかもしれませんが、必ずしもそれだけではないと思います。現地大学のボランティアとの交流はもちろんのこと、学内の団体にしか所属してない私にとっては日本の他大学との交流すら刺激的でした。彼らが何を考えどのように自分の大学生活をカスタマイズしているかを知ることが、自分の今後の大学生活を設計して行く上で大きな助けとなりました。バス内やエクスカージョン中での何気ない会話にこそ多くの気づきがあるものと思います。留学中に話す全ての会話を楽しんで行きましょう。

②参加後の予定

同じプログラムに参加した友達とHSK5級を受けることにしました。ライバル意識を持って語学に取り組む仲間がいることは良い意味で受験勉強期のような感覚です。頑張りたいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

短期留学では、何かを得ようとあれこれ考えるより、とにかく毎日を楽しんだもん勝ちだと思っています。毎日が貴重と思われ続けるからこそ密度の濃い留学ができるのは短期留学の醍醐味です。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありませんでした。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書（超短期プログラム用）

2018年 4月 6日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|-------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等： | 教養学部 | 学年（プログラム開始時）： | 学部1 |
| 参加プログラム： | ウィンタープログラム | 派遣先大学： | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職（希望）先： | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職（医師・法曹・会計士） |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業（業界： ） | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他（ ） | | |

派遣先大学の概要

中国で最も早く創立された四大学府の一つである。
 中国の主要な研究機関の一つであり、かつて「東洋のケンブリッジ」として知られていたが、1952年の中国の教育改革で、いくつかの単科大学に分かれた。1998年、国家評議会の承認を経て、浙江農業大学、浙江医科大学、杭州大学を吸収合併した。
 同国内で清華大学、北京大学に次ぎ、トップ大学とされる。(Wikipediaより引用)

参加した動機

もともと中国語を学習してみたいと思っていたが、学習開始のいいきっかけにできると思ったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

参加者でライングループが作られたのでそこで情報共有をしながら進めた。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

特になし。（入国審査では観光目的と答えた。）

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

特になし

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

付帯海学に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

単位認定がなかったので、特になし。

| |
|--|
| ⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等） |
| 出発前に一ヶ月ほど中国語の文法等を自習した。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 特別なものは必要なかったと思う。気候も日本と同じくらいで過ごしやすかった。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等） |
| 自分は一番下のレベルのクラスに入ったので、授業はほぼ発音ばかりであった。 中国語学習で特に難しいとされる発音をネイティブの先生に学び、夜に自分で中国語の文法を参考書で進めるやり方は自分に合っていたと思った。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 日本で少しでも多く勉強しておけばより充実した留学になると思います。 |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| 街中では英語がほぼまったく通じなかったので身振り手振りで伝えるしかなくて非常に骨が折れた。 |
| 生活について |
| ①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など） |
| 寮の二人部屋に東大生と一緒に泊まった。特に不便したことはなかった。 |
| ②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など） |
| 道路の信号の仕組みがよくわからず、また歩道をバイクが走っていたりしてかなり危険だった。お金は現地で日本円30000円分を両替したら2週間でちょうど使い切るくらいだった。 |
| ③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など） |
| スリなどに気をつけたが杞憂に終わった。 |
| ④要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算） |
| プログラム参加費に関しては奨学金が降りたので実質無料だった。航空費は往復で4万と少し、現地での生活費は3万円であった。 |

| |
|---|
| ⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など） |
| JASSOの奨学金（学校からの紹介） |
| ⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など） |
| 平日の授業後や週末に現地の学生に各地に連れて行ってもらった。主に観光だったが企業訪問にも行った。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等） |
| かなり充実していた。浙江大学のボランティア学生に相談すれば何でも手伝ってもらえて心強かった。 |
| ②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等） |
| 食堂はかなり費用が抑えられていて頻繁に利用した。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 中国語の入門に大いに役立った。また言語が通じない異国の地で自分で生活をしなければならなかったのでメンタルが鍛えられた。 |
| ②参加後の予定 |
| 日本で中国語の自主学習を引き続き継続していく予定である。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 第2外国語で中国語を選択していなくてもモチベーションさえあれば成果を上げられると思います。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| なし |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年 4月 5日

| | | | |
|-------------------------------------|----------------|-------------------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 教養学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部2 |
| 参加プログラム: | 浙江大学ウィンタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

| |
|--|
| 派遣先大学の概要 |
| 中国・浙江省杭州にある総合大学。今回は、玉泉キャンパスにて学習した。 |
| 参加した動機 |
| 大学入学時から学んでいる中国語の能力を、さらに高めるため。また、中国の大学に実際に身を置くことで、大学の雰囲気・学生の様子をつかみ、東京大学と比較したかった。さらに、中国語を学ぶ世界各地からの学生と話してみたかった。 |
| 参加の準備 |
| ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) |
| 短期プログラムでビザ不要なので、大学から案内された以上の事務手続きは特にしなかった。 |
| ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) |
| 日本国の一般旅券所持の場合、中国入国15日間なら査証免除。今回は2週間のプログラム故、ビザ不要。 |
| ③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等) |
| 持病なども特にないので、常備薬を持って行ったくらいである。現地で使うことは無かったが。 |
| ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) |
| 東京大学から案内された傷害保険に加入したのみ。手続きの方法は全て、東京大学からの案内に従った。 |
| ⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) |
| 教養学部の場合、OSSMA登録が必須なので、それを行った。また、海外渡航届(教養学部HPからダウンロード可能)を、教養学部教務課国際交流支援係に提出した。さらに、進学内定先の薬学部の教務チームにも、念のため、自分の氏名・渡航期間・渡航先を口頭で伝えた。 |
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 本プログラムとは全く関係なく、2年生の夏休みに受験したHSK4級。1年生の4月から2年生の7月まで中国語を履修し、2年生の8、9月に中国に渡航(日中友好大学生訪中団)、それ以降は中国語をほとんど使っていなかった。2年生の春休みに入ってから学習しようと思っていたが、学部のレポートに追われたり他の活動をしたりで、ほとんど勉強せずに現地へ渡ってしまった。後悔している。 |

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

万が一に備えて、海外キャッシングができるように備えておいた方が良かったと思った(出発前々日にカード会社に問い合わせたところ、手続きに3週間以上かかると言われて、あきらめた)。さらに、qqのような、中国系のフリーメールを一つ作り、普段使っているyahooメールやgmailから転送するように設定しておくべき(vpnや、googleの使えるwifiを借りて行っても、現地では何があるかわからないので)。さらに、現地の学生と連絡先を交換したり、現地のクラスに入ったりする上で、wechatは必須アイテムだろう。中国語のクラスでは、初回授業で先生+学生から成るwechatのグループチャットが作られ、宿題の連絡がそこで行われることもあった。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中国語のレベルを「No ability」以外のレベルで申し込むと、初日に簡単な口頭テストが行われる。テストというよりは、先生と一対一で、テキストを見ながら、「この教科書にあるこの単語リストの単語を読んでみて」とか、「この単語を使って文章を作って」とか、「”把”構文って既習?」とか、聞かれる。各々の学生が適切なレベルのクラスに入れるように、面接をするイメージ。それによって分かれたクラスごとに授業を受ける。授業は、8:00~11:25で、95分×2コマ。午後は自由行動か、浙江大学のボランティアの学生が引率でアクティビティ(観光)に出かけた。基本的に、毎回の授業で宿題が出されるので、それを確実にこなす。分量的には、1コマの宿題で30~1時間くらいかかる量で、多すぎず、少なすぎず。クラスには、韓国・タイ・インドネシア・ロシア・サウジアラビアなどの学生がいた。私は初級レベルで、中国語で授業が行われた(単語の注釈で英語がときどき出てくるくらい、全体の95%は中国語で、5%は英語で、という感じ)。

②学習・研究面でのアドバイス

2週間しかないので、このプログラムの主目的を「語学力の向上」とすると、期待しているほどのものを得られないと思う。語学力を向上したいなら、日本でじっくり学習した方がよい。でも、世界各地からの学生・社会人(私のクラスには50代の韓国人や、既婚のロシア人もいた)と中国語で会話する経験は、かなり貴重(私はインドネシア人・サウジアラビア人と中国語で会話して、なんとも不思議な気分だった)。それと、授業中に大量の質問が出てくることも、日本と大きく違う点。積極的に質問したり、海外からの学生と積極的にコミュニケーションを取ったり…そういう自発性が無いと、このプログラムの活動はつらいと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

相手の言う中国語が聞き取れないこと。授業なら、わかるまで先生に聞き返せばよい。でも、学生寮のフロントや、大学内の食堂のスタッフとスムーズな会話ができない(英語は通じない)。それがつらかった。浙江大学のボランティア学生は日本語・英語が話せるので、彼らと一緒にいるときには困らなかったが、日本の学生だけで行動しているときには、苦勞が多かった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

キャンパス内の国際寮。大学が用意してくださったもので、自分で探す必要はなかった。設備は、ビジネスホテルのツインルームをイメージすれば、その通り。土日を含めて毎日清掃が入り、バスタオルの交換やベッドメイキングをしてくれて、非常に快適だった。朝8:00頃から清掃が入るので、そのことを意識しておくべき。特に、朝1コマめに授業が無かったり、休日だったりして、清掃の存在を忘れて寝ていると、清掃してくれないかも。朝8:00には、清掃の人がいつきてもいい状態にしておくのが良い。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ジャンパー・マフラー・手袋でも寒い、という日もあれば、半そででも汗ばんでくるような日もあった。着脱可能な服装をしていくべき。雨もけっこう降るので、傘は必須。食事は、大学構内の食堂で済ませると、非常に安くつく(一食15元もあればおなか一杯)。国からの補助が出ていて、北京大学や清華大学はもっと安いとか。ただ、営業時間が食堂ごとに異なり、また、昼食の2時間・夕食の2時間しかやっていない、というような感じなので、いつでも食べられるわけではないことに注意。さらに、国際寮1階の留学生食堂以外の食堂では、キャンパスカードでしか支払いができないので、要注意。キャンパスカードは、東京大学本部国際交流課の職員(引率して下さった)立会いの下、つくることができた。カードを作った窓口に行けば、現金でのチャージもできる(支付宝がないと、機械でのチャージはできない)。それから、寮の洗濯機は、支付宝がないと使用できない(現金での支払いは不可)。私は、洗濯機コーナーにいる見ず知らずの人(この人も、たいていは中国語を学びに来ている留学生)に話しかけて、支払い代行をしてもらった(現金をその人に渡した)。ちなみに、洗濯は40分コースで5元。乾燥機は別に備え付けられている。部屋には干すスペースやハンガーなどは特にない。ハンガー、洗濯ばさみは持っていくとよい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はそんなに心配ないと思われる。外務省のたびレジ登録(←海外行くなら登録を習慣にすべき)にも特に危険情報は無かったし、海外安全HPにも危険であるという記述は無かった。むしろ、プログラム後に多くの人が観光するであろう上海の方が杭州よりも危険かも。お世話になることは無かったが、キャンパス内にも病院があるので、緊急の場合でもそれほど困らないのではないかと思う。あとは、疲れていると思ったら無理せずに寮で休むこと。自由行動の時間にあまりにも活発に動きすぎて、体調を崩すことのないように。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃35000円(東京成田・上海浦東往復、中国国際航空利用)に加えて、プログラム参加費60000円(全額奨学金をもらう)・その他自己負担35000円(人民元に両替した)。最初の5000円は成田空港で両替し、次の30000円は現地のボランティアの学生とともに中国銀行で両替した。自分一人で中国銀行に行って両替を試みたが、「中国の携帯番号が無いならダメ」と言われて、できなかった。「ビザ無いの?」とも聞かれた。「浙江大学に留学し、宿舎は浙江大学」だけ「ビザなし」という極めて特殊な渡航なので、両替は浙江大学のボランティア学生とともに行くのが吉。ちなみに、一緒にプログラムに参加した東大の学生で、「日本の携帯番号を書いた」とか、「13で始まる13桁のテキトウな番号を書けば大丈夫さ」みたいに言っている学生もいたが、どんな刑罰に問われるかわからなく、そんな勇気はなかった。私が今回感じた、「外国人の、中国の住みにくさ」の一つがこれ。教科書代は158元だった。ただ、2週間しかいないので、コピーで済ませるのも手。コピーはキャンパス内にコピーしてくれる店がある。週末に南京へ行ったスクールバス代230元、あとは食費・土産代など。マクドナルドでフレオフィッシュのセットで34元、キャンパス内のカフェでアメリカンコーヒー一杯12元、キャンパス内のベーカリーでソーセージパン一個8元。キャンパス内の食堂なら、ごはん(東大の生協食堂のライスのLサイズくらいの量)＋おかず2つのセット(野菜炒めなど)で8元。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOから60000円。本プログラムの説明会(ウインタープログラムの説明会)時に、奨学金がある旨、説明を受けており、手続きはすべて東京大学の指示に従った。それ以上、自分で手続きの必要はなかった。私は、普段(東京大学の学費について)は奨学金を受けていない身だったので、手続きは最も簡単だった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

浙江大学のボランティア学生とともに行動していた。杭州の名所である西湖・茶葉博物館を訪れたりした。週末は、日帰りで南京へ行った(浙江大学のボランティア学生が、スクールバスをチャーターしてくれた。一人230円で参加させてもらった)。南京では、浙江大学のボランティア学生の友人である南京大学の学生と食事する機会も得られて、光栄だった。平日の夜間に、カラオケ・飲みに行く機会もあった。さらには、浙江大学のボランティア学生が履修する授業に潜らせてもらうこともできた(清代の文化についての授業、担当の先生が潜りを許容しているらしい)。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

何よりも、日本語・英語の通じる浙江大学のボランティア学生が10人以上いてくれたので、彼らとともに行動して困ることは無かった。精神的な面でも、語学的な面でも、かなりサポートしてくれていた。ただ、留学生寮のフロントは英語も通じないので、ある程度の中国語能力が無いと、特に夜間のトラブルでは困る。初日の夜に、バスタブの栓の開け方がわからず、困った。それと、部屋はオートロックで、鍵を部屋に置いたまま出てしまったときにも、中国語しか通じない環境で何とかせざるを得なかった(←この解除には、パスポートナンバーを書かされるので、覚えておこう)。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は大きいですが、我々は立ち入れなかった。スポーツ施設は存在し、浙江大学のボランティア学生と卓球・バスケットをした東大生がいた。食堂は大きく、非常に安価。一食15元もあればおなか一杯に食べられる。私は、朝から油物を食べると体調を崩すので、朝食については、キャンパス内のスーパーやパン屋さんで前日に購入したパンを食べるようにしていた。ただ、食堂の営業時間は、朝食の2時間・昼食の2時間・夕食の2時間という感じで、食事をどんな時間でも取れるというわけではないので注意。キャンパスを出て、少し歩けば飲食店もある。そういう飲食店に行けば、値段は少し高いが、中途半端な時間帯(15:00とか)でも食事できる。ただ、キャンパス内のスーパーでカップ麺を買い、部屋に備え付けの湯沸かし器でお湯を沸かして…という方法も取れた。PC環境は、2週間で35元の学内Wifiが使えたが、時々不調…さらに、中国で閲覧できないサイトは当然閲覧できない。外出の機会も結構多かったのも、日本でwifiレンタルしていった方が良いと思う。外出時に、スマホの地図が使えると心強いので。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

「中国語能力の向上」は、期待していたよりもうまいかなかった。これは、想像よりも授業の時間数が少なかったことや自分自身が日本で勉強していった量(事前準備)が足らなかったことに起因すると思う。それでも、中国語のクラスのクラスメート(インドネシア人・韓国人・ロシア人)と昼食に行く機会に自分から飛び込んだり、授業中に積極的に前の方に座り、質問をしたりすることで、決して日本では味わうことのできない体験ができた。中国語母語ではない人と中国語で会話するというのもものすごく貴重な体験だった。キャンパス内に寮があって、通学時間がかからない、という環境も魅力的だった。浙江大学の朝一のコマは8:00に始まり、夜最後のコマは21:30に終わるようだ。これは、通学に1時間近くかけている学生が多い東京大学では(おそらく?)不可能な時間割なのかもしれない。さらに、食堂の営業時間が限られていることにも驚いた。どんなに実験が忙しくても、一定の時間帯に食事を取らねばならない状況をつくる、というのは、日本で最近問題になっている「ブラックラボ」の解決策の一つになるかもしれない。それから、浙江大学の授業の一つ潜ったのだが、内職・睡眠・ゲームしている学生や、遅刻して入室してくる学生も一定数おり、この点は東京大学とも大差ないと知れて、(悪い言い方だが)安心した。

②参加後の予定

はっきり言って、この2週間は暮らしにくかった。高校1年生の夏・大学2年生の夏に1週間ずつ、中国を訪れたが、今回の2週間はそのときには感じられなかった「外国人が暮らす不便さ」を見てしまったような気がする。次の中国訪問は、少し間をあけてからにしたい、と思っている。ただ、中国語の語学力を落とすくはないので、日本国内で、中国からの学生とコミュニケーションを取る機会を積極的に持ちたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間の中国滞在、しかも観光ではない。想像以上に暮らしにくいことを覚悟しておこう。中国は、自身のスマホと銀行口座を結び付け、支付宝(アリペイ)で何でも支払ってしまう国。現金はほとんど使われていない。支付宝が無いと、寮の洗濯機を使えない、長距離鉄道の事前予約ができない…。さらに、バスは運賃が2元とか4元とかなのだが、支払う場所に両替機は無く、お釣りも出ない。鉄道の外国人利用も不便。私自身、杭州から上海への移動の鉄道の切符を受け取るのに、杭州のただっ広い(空港ターミナルくらいの大きさ)駅を端から端まで歩いたり(中国政府発行の、中国国民IC身分証明さえあれば、そんな必要はない)。母国がいかに暮らしやすいかが身にしみてわかる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

プログラム終了後に、上海に一泊する予定だったので、上海の小さいガイドブックを持って行った。外務省たびレジとか海外安全ホームページは必ず参照するようにしよう。オフラインで使える、中国語の辞書をスマホにダウンロードしている友人がいてうらやましく思ったので、そんなものも入れておくとよい。浙江大学のwifiからは、googleもyahooも検索が拒否されてしまうので、bing検索できるようにしておこう。(bing中国版をブックマークしておく)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

1) お世話になったキャンパスとは別のキャンパス(紫金港キャンパス)の食堂外観。かなり大きい。



2) 中国語の授業でお世話になった「浙江大学国際教育学院」



3) 中国語の授業を受けた教室。大学の講義室としては、それほど大きくはない。25人くらい収容。



4) ある日の食事、これで13元。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月26日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 薬学部 | 学年(プログラム開始時): | 学部3 |
| 参加プログラム: | 全学ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

中国の大学の中で、北京・清華に次ぐ大学。
有名企業Alibabaの本社がある、浙江省杭州に拠点を置いている。
中国の中では治安、衛生環境共に最高水準だそう。

参加した動機

経済的に急成長を遂げている中国を直接見てみたかったから。
また、留学はどういったものなのか、留学にあたって自分に欠けている部分を知るため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加申込書の添削を第三者に依頼するとよい。自分の場合は、学部の国際交流室の人だった。
提出期限をしっかりと守ること。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

プログラム後すぐに帰国したので、ビザは不要だった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で進められたものだけにのみ加入した。
2週間だったので、OSSMAIには加入しなかった。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

初学者も歓迎のプログラムだったので、中国語は全くやっていかなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

現地でよくしてくれた人向けに手土産を持っていくべきだった。
中国では日本のお菓子が高いので、コンビニ等の売っているお菓子でも十分よい。
抹茶味のうけがやや良かった。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中国語初学者用のコースで授業を受けた。中級者や上級者のコースとは異なり、西洋系の人の割合が高く、終止賑やかな雰囲気での授業だった。2週間の間は発音が9割5分、その他は漢字といった授業構成だった。漢字の授業は日本人にとってはつまらないが発音はネイティブに長時間教わることになるので、日本で発音を学んだ他の学生よりも、綺麗で正確なものが学べているような感触がした。その点は非常によかった。全体的に満足していく2週間の授業だった。

②学習・研究面でのアドバイス

授業がない時間やアクティビティの時間中も、既習の日本人学生や中国人の学生ボランティアに発音を積極的に習った。授業では単語の勉強や日常会話はほとんどなかったので、この機会を有効活用した。

③語学面での苦勞・アドバイス等

発音は反復練習

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

留学生寮は非常に綺麗だった。
清掃が毎日入る。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

日本とおおよそ同じ気候で、空気も綺麗だった。衛生環境も想像よりもよかった。水回りだけが気になった。おおよその店で現金が使用できるが、一部AlipayやWe chat payしか使えないものがある。可能であればこれらを用意していくことが好ましい。VISAやMaster Cardが不便に感じることもある。

| |
|--|
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など) |
| 早寝早起き。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 奨学金6万円を差し引くと、航空券で6万円、現地の食費や観光で3万円程度使った。 食堂は10元程度で利用でき、高めのレストランでも50元程度なので、食費はあまりかからなかった。 |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSO |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 授業後は毎日何かしらの観光をした。 学校の施設を使ってスポーツもした。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 日本語がある程度使える学生ボランティアが非常に親切。 バスのチケットや観光など、大概のことはボランティアスタッフが協力してくれる。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| スポーツ施設や食堂は自由に使える。 ネット環境には注意が必要。Google系やYahoo、LIENやFacebookといった各種SNSは使用できない。 これらを使用したい場合はVPNを用意しておく必要がある。無料のものもあるが、不安定かつセキュリティが心配なので、有料のトライアルなど使って、ある程度のものを用意しておくといよい。 We chat(中国版LINE)は必須。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 今回のプログラムを通しての所管は以下の2点である。 1. 中国文化と現状の体感 アクティビティが非常に多く、学生ボランティアと接する機会が多いため、中国文化に触れる機会は多分にあった。また、アクティビティはバリエーションに富んでおり、歴史のある中国から、経済発展を遂げる現在の中国まで広く学べた。 2. 長期留学の疑似体験 実際に現地の授業に入り、多様な国籍の学生と交流する機会がある。それを通して、長期留学の雰囲気を掴むことが出来た。また、それにあたって自分に必要なことも明確になった。 |
| ②参加後の予定 |
| 研究に全力投球の予定。 研究室に在籍する中国人に中国語を習っていきたい。 |

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国は想像以上によいところでした。観光に困ることはなく、ご飯も美味しいです。なにより、現地の学生ボランティアがとても親切で、何かあったら助けてくれます。何も心配することなく、ぜひ応募してください。最高の2週間を送れると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月28日

| | | | |
|-------------------------------------|---------------|--------------------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 農学生命科学研究科 | 学年(プログラム開始時): | 修士1 |
| 参加プログラム: | ウインタープログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| <input type="checkbox"/> | 1. 研究職 | <input type="checkbox"/> | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| <input type="checkbox"/> | 3. 公務員 | <input type="checkbox"/> | 4. 非営利団体 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(業界:) | <input type="checkbox"/> | 6. 起業 |
| <input type="checkbox"/> | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学は中国で最も歴史の古い総合大学の一つであり、浙江省・杭州に位置している。本プログラムは浙江大学が実施する中国語講座や文化体験、学生交流を行う2週間のプログラムである。

参加した動機

中国に興味があり、自分の目で見たいと思ったため。中国は地理的に近い国であり、漢字や仏教などが到来し、文化的・思想的な影響をもたらした国だ。しかし、私自身、正しい理解ができていない国であり、参加してリアルな中国を知りたいと思った。また世界中の留学生と交流できる機会は魅力的だったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出書類をしっかりと出すこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請なし

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を持って行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から指示のあった保険に加入した。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学許可願を提出した。

| |
|---|
| ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等) |
| 初学者レベル。出発前に図書館で何冊か教科書を借りたが、実際は現地で買ったため、使わなかった。 |
| ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど |
| 寮以外のトイレには紙がないため、トイレトペーパーを持って行った。 |
| 学習・研究について |
| ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) |
| 平日朝8時から11:30 or 12:15まで授業があった。初学者だったので、授業は発音からスタートした。2週間と期間が短いこともあり、発音で終わってしまった。 |
| ②学習・研究面でのアドバイス |
| 発音は大事で、文法ができていても発音ができなければコミュニケーションができないと先生がおっしゃっていた。初級だと進みも遅いと思うが、おろそかにしないで取り組むほうが良い。 |
| ③語学面での苦勞・アドバイス等 |
| 私の場合、全くの初学者だったため、意思疎通が図れず、苦勞する面もあった。 |
| 生活について |
| ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) |
| 留学生寮。2人1部屋で、毎日ハウスキーピングも入った。 |
| ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) |
| 気温差が大きい。朝晩は少し寒くても、日中は気温があがり暑いくらいの日もあった。また雨になることもあった。 |
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 杭州はお金もちが多いらしく、治安は良いと思う。ただバイクや車の運転マナーは良いとは言えないため、道を渡る際などは特に注意が必要だ。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 4万円を両替したが3万円でも十分だった。 |

| |
|--|
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSO・6万円 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| ボランティア学生と西湖へ行ったり、週末には南京へ行った。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 国際交流課の方によるサポートはほとんどなかった。しかしボランティア学生がだいぶ助けてくれた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| とにかく広い。私がいたのは玉泉キャンパスで、そこでも広いと思ったが、紫金港キャンパスはさらに大きい。この学食はアジア最大級だそうだ。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 二週間は短いため、私のような初学者だと話せるようにはならない。しかし、実際に行ってみて自分の目で見ることは重要だ。文化体験や現地学生との交流はできたと思う。さらにはメンバー内で仲良くなることができたため、学部・学年をこえた繋がりを作ることができた。 |
| ②参加後の予定 |
| これからも中国語の勉強を続けていく。また今回仲良くなったコミュニティで定期的集まる予定だ。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 迷っているならぜひ参加してみると良いと思います。 |
| その他 |
| ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物 |
| 利用なし |
| ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 |
| |

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2018年3月30日

| | | | |
|------------------|---------------|---------------|--------------------|
| 東京大学での所属学部・研究科等: | 公共政策学教育部 | 学年(プログラム開始時): | 修士1 |
| 参加プログラム: | ZJUプログラム | 派遣先大学: | 浙江大学 |
| 卒業・修了後の就職(希望)先: | | | |
| | 1. 研究職 | | 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) |
| | ✓ 3. 公務員 | | 4. 非営利団体 |
| | 5. 民間企業(業界:) | | 6. 起業 |
| | 7. その他() | | |

派遣先大学の概要

浙江大学(Zhejiang University)は、中国で最も歴史がある大学の一つ。浙江省の杭州市の西湖区に位置する。1897年に設立された。

参加した動機

私がこのプログラムに応募した理由は、中国の歴史、文化に興味があるからです。アメリカの大学で4年間過ごし、日本の高校では深く学べなかった「南京大虐殺」や「731部隊」などの悲惨な歴史を学ぶ中で、「日中の歴史認識の違いを乗り越え、二国の間に平和な関係を構築したい」という思いを強く持つようになりました。中国についてより深く知るため、大学在学中に中国語のクラスを2年間受講し、大学3年時には、北京首都師範大学に3か月半留学をしました。留学中に文学部に入部し、大学の発表会では中国語で日本の詩を発表するなど、文化交流に努めました。現在は、東アジアの国際政治、現代中国の外交政策、日本外交政策などのクラスを受講しています。また、HSK5級テストに向けて、日々中国語を学んでいます。中国の学生と交流し中国の歴史や文化をさらに深く知りたい、また中国語のレベルを上げたいという思いで応募しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラム直前に辞退した人もいたため、自身がプログラムに確実に参加可能か考慮するべきだと思う。また、プログラムによっては提出書類の種類が異なるため、注意するべきである。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国はVISAなしで滞在できるのが2週間以内であるため、入国・出国の日にちを間違えないように厳重注意する必要がある。また、OSSMAは、学部によって、必須のところもあるため、所属学部にお問い合わせすることを忘れないようにすべきである。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

出発前は、風邪などひかないように、体調管理をしっかりとる。予防接種は行わなかったが、常備薬は持っていくべきである。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

海外旅行傷害保険は必須なので、締め切り日を確認し、なるべく早めに手続きする。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

東京大学公共政策大学院には、留学許可申請書を提出した。また、OSSMAが必要か否か問い合わせた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前は、ボランティアの方と多く話すことを想定し、中国語会話文の暗記に集中した。また、中国のラジオなどを聞いて、リスニング力向上にも努めた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

海外でも使えるドライヤー、小分けの洗剤、レンタルWiFi

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

中級レベルである4-1を受講。科目は、精読・閲読・口語・作文である。講師は授業によって異なったが、全員レベルの高い講師であった。授業はすべて中国語で行われ、講師の話すスピードは早めだった。精読は単語について例文をまじえて丁寧に説明してくれ、閲読では速読の方法について教えてくれた。作文では、ある単語を使って短文を書くことを要求された。口語は特におもしろく、授業内でクラスメートと1つの話題について話すことが多かった。宿題量は多くはなかった。

②学習・研究面でのアドバイス

中国や浙江省の歴史や文化についての基本知識を持ってから留学すると、留学をさらに有意義なものにできる。授業の先生やボランティアの方から得た知識はこまめにメモすると忘れない。

③語学面での苦勞・アドバイス等

ボランティアの方が日本語習得者のため、中国語で話しかけても、英語または日本語で返されることが多かった。あちらが日本語や英語で話しても、こちらは中国語で返す気概が必要。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮は、浙江大学の留学生寮の1つで、2人1部屋で、比較的過ごしやすかった。ハウスキーピングが入るため、掃除やタオルの交換は大学側がしてくれる。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

杭州の気候は、雨が多く、寒暖の差が激しい。傘は持参するべき。また、長袖と半そでを両方持っていくと便利だと思う。大学周辺はレストランなどが多く、食事には困らない。学食は値段が安く、非常においしい。主な交通機関は、タクシー、地下鉄、バスなど。レンタル自転車も使用できるが、道路上は車やバイクが横行しており、注意が必要。お金に関しては、クレジットカードが使用できないところも多いため、現金を持っていき、両替したほうが早い。

| |
|---|
| ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) |
| 治安は非常に良いが、女性は1人で行動するべきではない。プログラム中で風邪をひいた友達もいたため、健康管理は徹底したほうが良い。 |
| ④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) |
| 往復航空賃:6万 食費・交通費・娯楽費など:3万 |
| ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) |
| JASSOから6万 |
| ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など) |
| 週末は南京や紹興などに訪れた。 |
| 派遣先大学の環境について |
| ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) |
| 参加学生へのサポートはとても充実しており、特にボランティアの方は学習面・生活面・精神面など全般をサポートしてくれた。また、同じプログラムに参加した東京大学生とも非常に仲良くなり、励ましあうことができた。 |
| ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等) |
| 図書館やジムはあまり使用しなかった。浙江大学玉泉キャンパスには質の高い食堂がいくつもあり、低い値段で満足のいく食事ができた。自分のレンタルWIFIを持参したが、接続環境は非常に悪かった。 |
| プログラムを振り返って |
| ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 |
| 今回のプログラムで、自分の中国への関心、中国語への学習意欲が高まった。主な理由としては、浙江大学のボランティアの方々との交流だと思う。彼らと会話を交わす中で、自分の中国語レベルの低さや、中国に関する知識のなさを痛感し、「さらに勉強していきたい」と感じるようになった。参加を通じて、中国社会への理解と中国語会話力は確実に上がったと思う。 |
| ②参加後の予定 |
| 本年9月から北京大学に半年交換留学する予定なので、それまでに浙江大学培った語学力と知識をさらに深めていきたいと決意している。また、本年中にHSK6級も受験したい。 |
| ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス |
| 浙江大学留学プログラムは非常に有意義なプログラムです。中国語力があまりない方もぜひ参加して頂きたいと強く感じています。 |

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特になし。